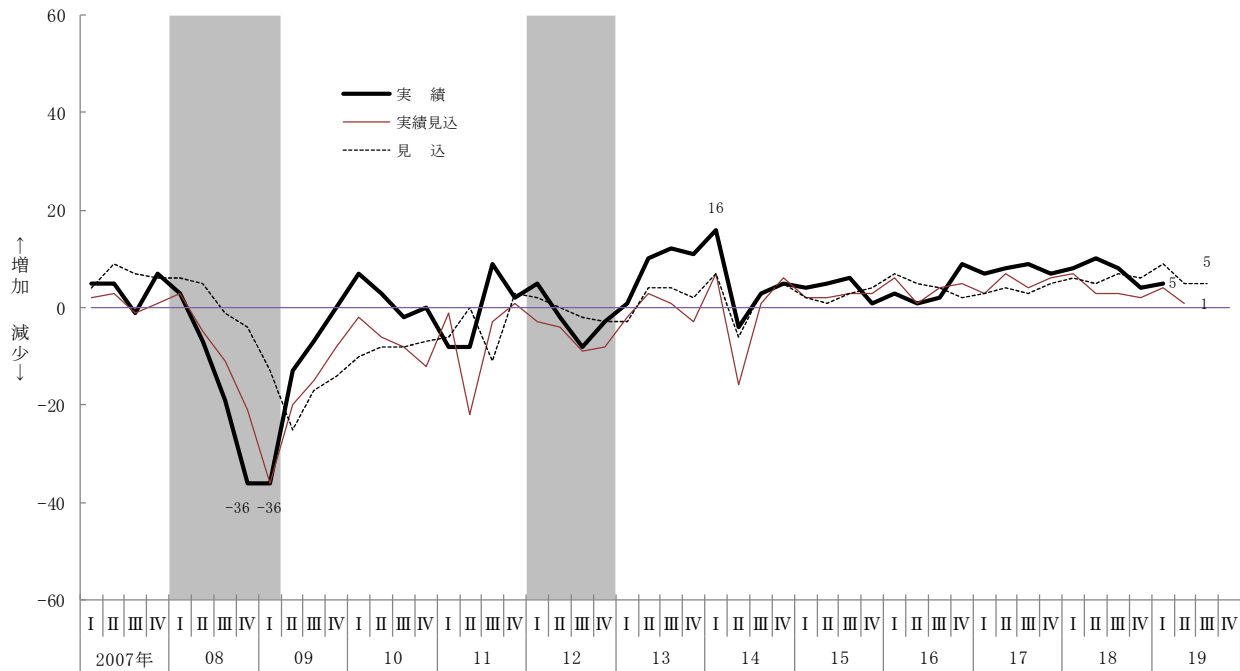


## V 統計図表

第1図 生産・売上額等判断D.I. (季節調整値) の推移

調査産業計

(ポイント[増加(%) - 減少(%)])



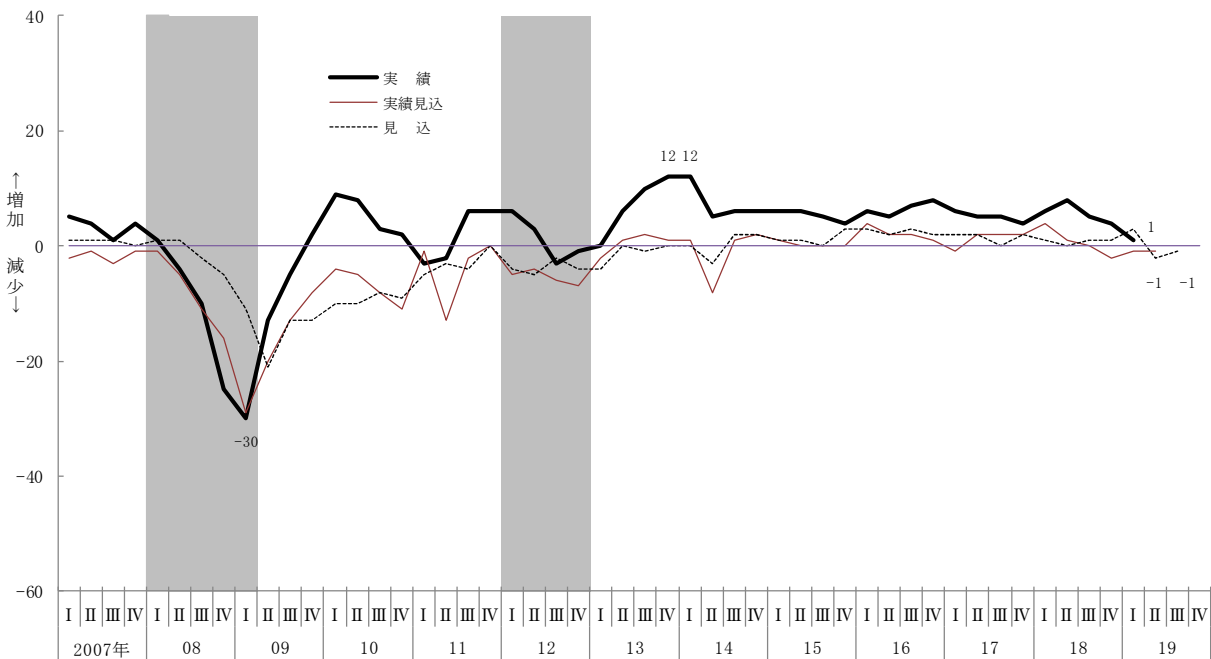
注:1) 「生産・売上額等判断D.I.」とは、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。

- 2) ローマ数字は四半期 ( I :1~3月、II :4~6月、III :7~9月、IV :10~12月)を示す(以下同じ)。
- 3) 網掛け部分は内閣府の景気基準日付(四半期基準日付)による景気後退期を示す(以下同じ)。
- 4) 無回答を除いた集計による。

第2図 所定外労働時間判断D.I. (季節調整値) の推移

調査産業計

(ポイント[増加(%) - 減少(%)])



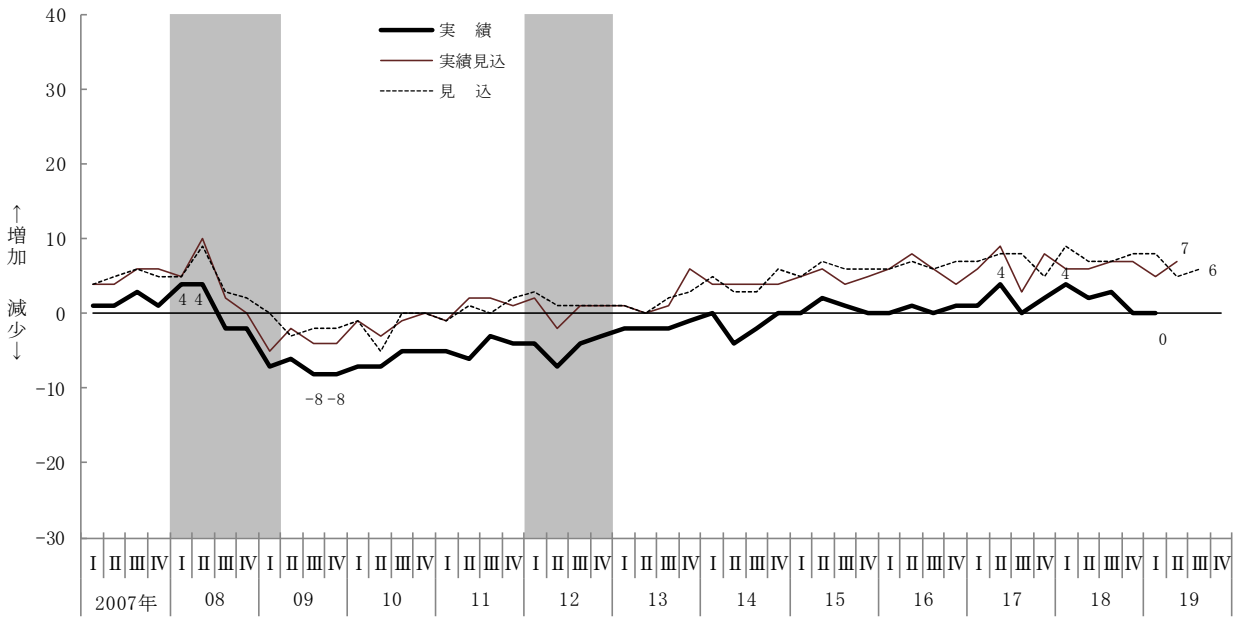
注:1) 「所定外労働時間判断D.I.」とは、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。

- 2) 無回答を除いた集計による。

### 第3図 正社員等雇用判断D.I.（季節調整値）の推移

調査産業計

(ポイント[増加(%)-減少(%)])



注:1) 「正社員等」については、2007年11月調査以前は「常用」として調査していた。そのため、実績は2007年IV期、実績見込は2008年I期、見込は2008年II期以降の数値とは厳密には接続しない。

\*「常用」・・・雇用期間を定めなくて雇用されている者をいう。パートタイムは除く。

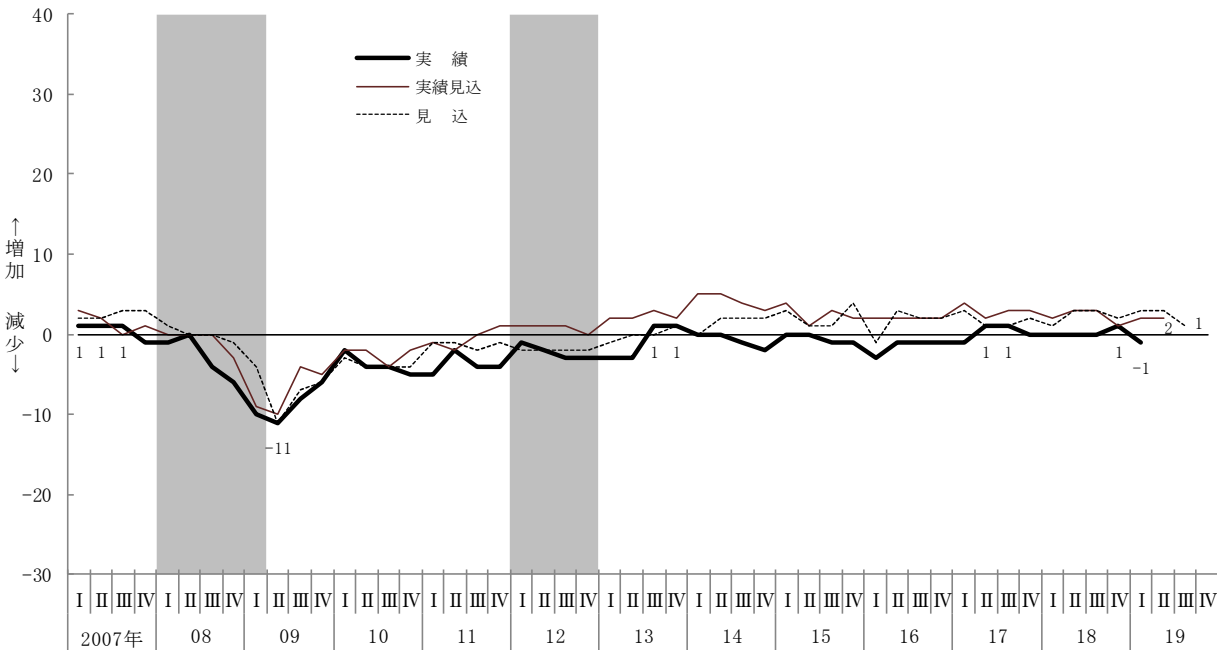
2) 「雇用判断D.I.」とは、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。

3) 無回答を除いた集計による。

### 第4図 パートタイム雇用判断D.I.（季節調整値）の推移

調査産業計

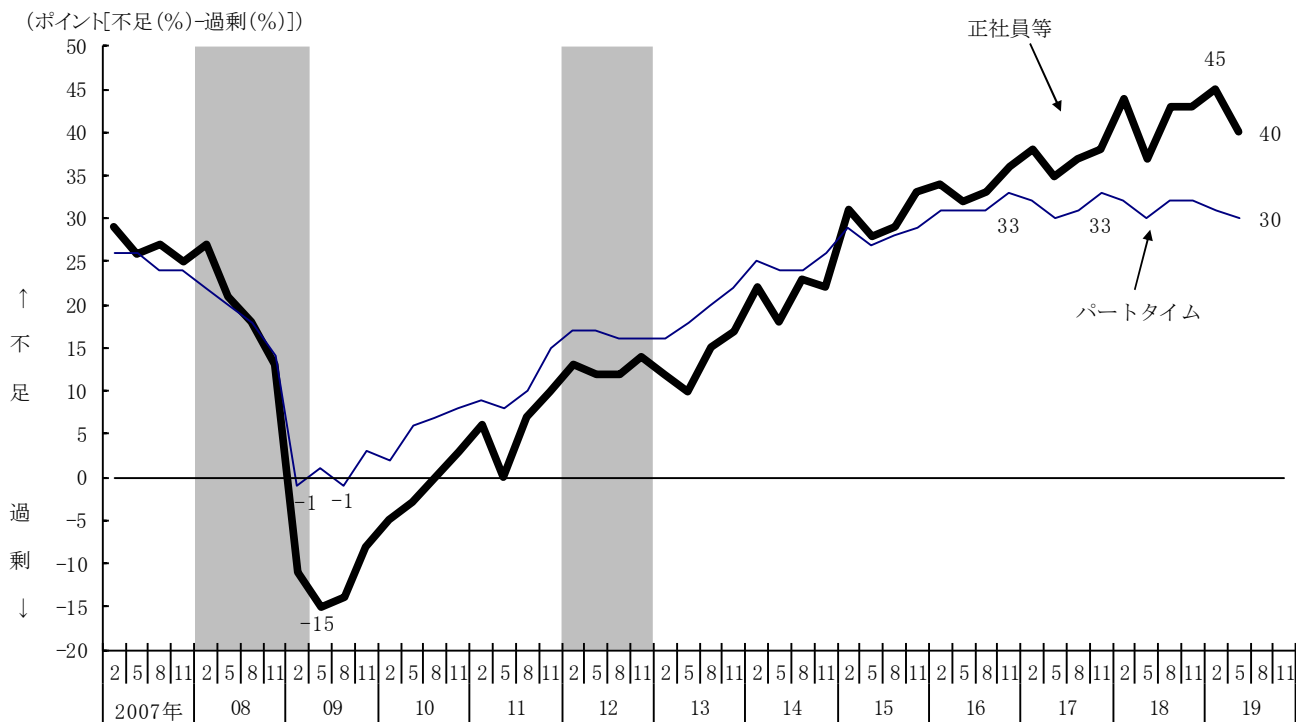
(ポイント[増加(%)-減少(%)])



注:1) 「雇用判断D.I.」とは、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。

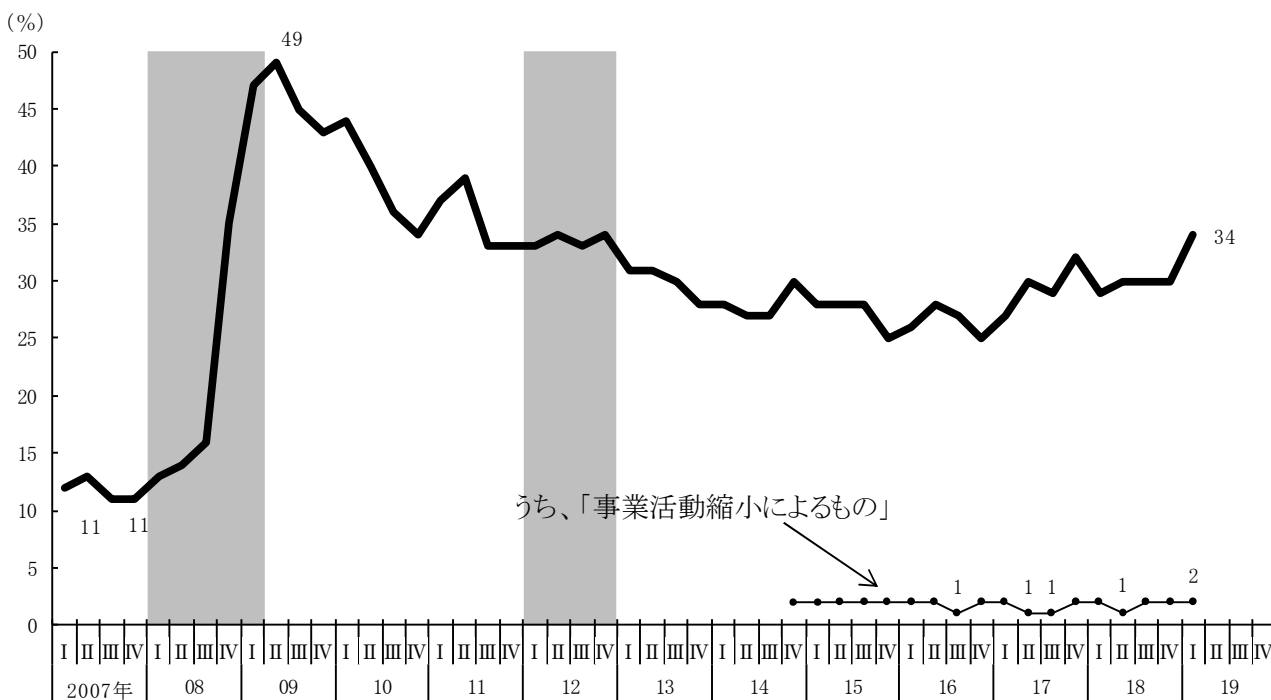
2) 無回答を除いた集計による。

第5図 雇用形態別労働者過不足判断D.I.の推移（調査産業計）



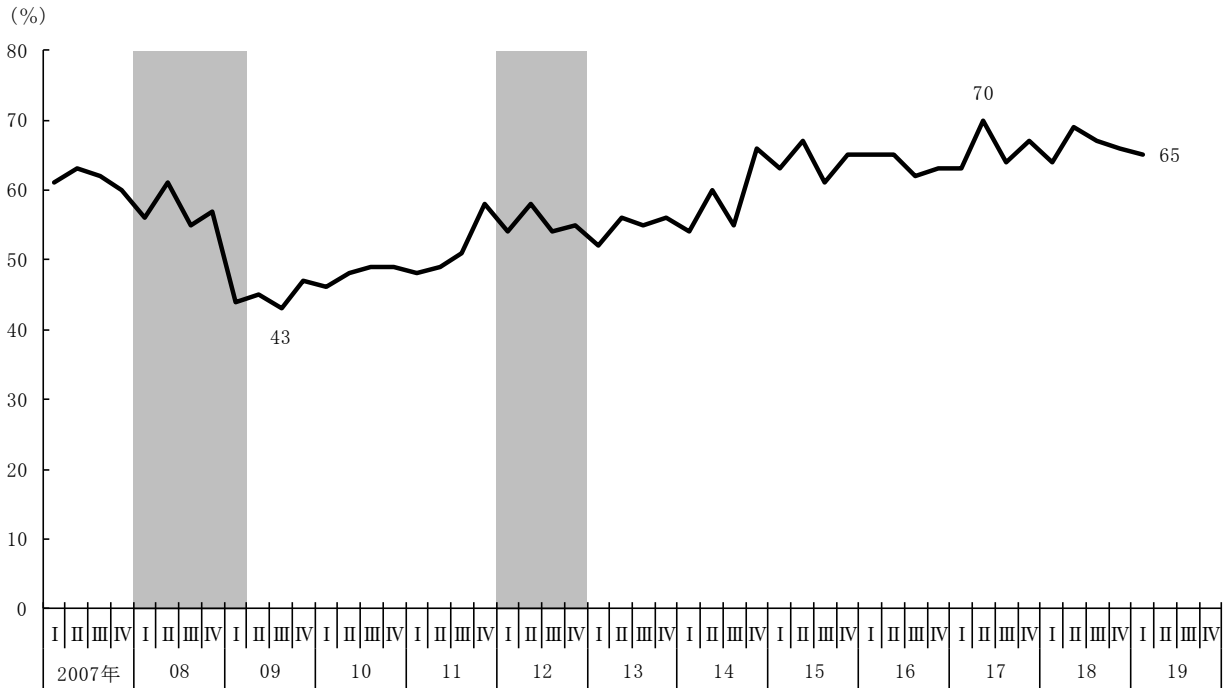
- 注:1)「正社員等」については、2007年11月調査以前は「常用」として調査していたため、2008年2月調査以降の数値とは厳密には接続しない。  
 \*「常用」・・・雇用期間を定めないで雇用されている者をいう。パートタイムは除く。
- 2)「労働者過不足判断D.I.」とは、「不足」と回答した事業所の割合から「過剰」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。
- 3)グラフ横軸の「2」は2月1日現在、「5」は5月1日現在、「8」は8月1日現在、「11」は11月1日現在の状況を示す。
- 4)無回答を除いた集計による。

第6図 雇用調整実施事業所割合の推移（調査産業計・実績）



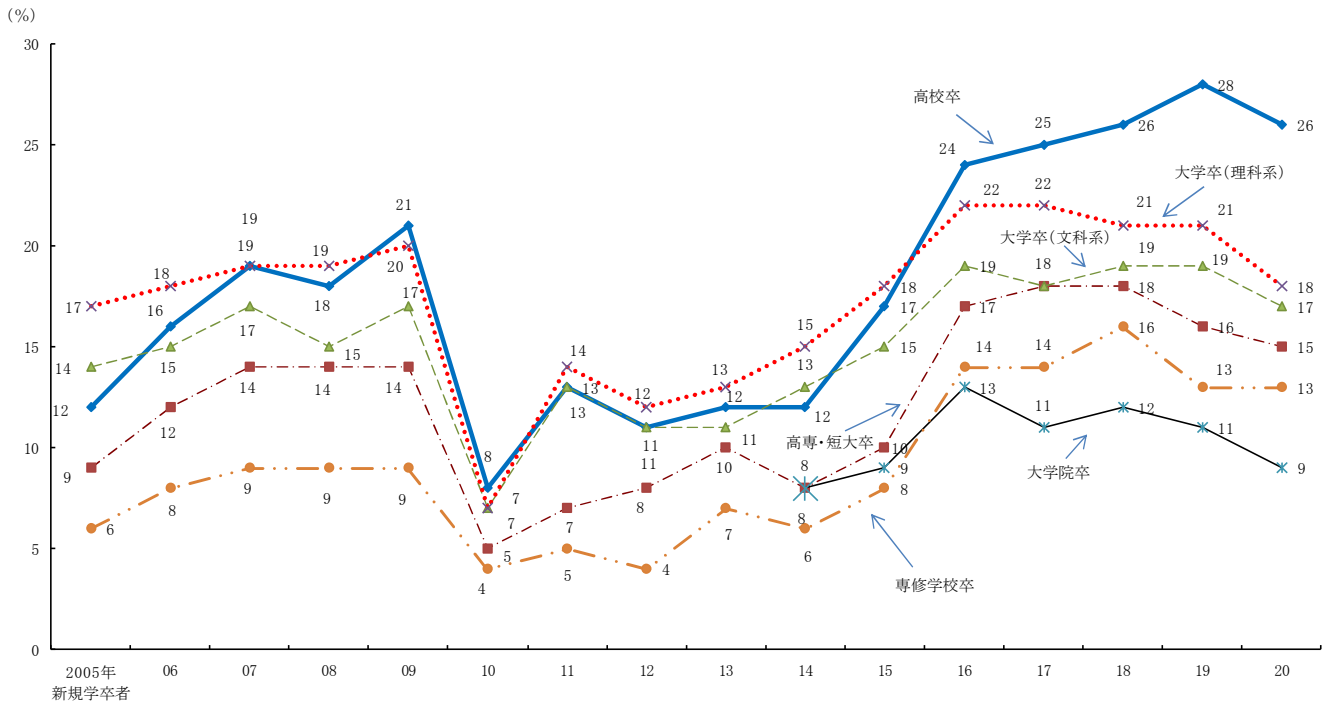
注：無回答を「実施していない又は予定がない」とみなした集計による。

第7図 中途採用の実績がある事業所割合の推移（調査産業計・実績）



注:無回答を除いた集計による。

第8図 新規学卒者採用予定者数の学歴別増加事業所割合の推移（調査産業計）



- 注:1) 「本年は採用しておらず次年も採用しない\*及び無回答を除いた集計による。  
 (\*2019年調査の場合は、「2019年は採用しておらず2020年も採用しない」)
- 2) 学歴区分については、大学卒(大学卒(文科系)、大学卒(理科系))に大学院卒を含めていたが、大学院進学者が増加したことから、2013年調査より大学院卒を分離し、調査・集計した。そのため、2012年調査以前の大学卒(大学卒(文科系)、大学卒(理科系))との数値の比較は、注意を要する。(なお、2013年調査結果(2014年)は、大学院卒8%、高専・短大卒8%とグラフが重なっている。)
- 3) グラフ横軸の年は、何年の新規学卒者であることを示す。(2019年調査の場合は、「2020年新規学卒者」)